

研究分野	資源評価	部名	資源開発部
研究課題名	東通原子力発電所温排水影響調査 海洋生物調査		
予算区分	水産業企画調査費（広報安全対策交付金10/10）		
試験研究実施年度・研究期間	H.15～H.27		
担当	大水 理晴		
協力・分担関係	水産振興課		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握する。なお、本調査は東通原子力温排水影響調査に基づく調査項目の海洋生物のうち主要魚種漁獲動向（イカナゴ）について実施した。

〈試験研究方法〉

- (1) 漁獲動向調査
- (2) 標本船調査
- (3) 仔魚分布調査

〈結果と概要・要約〉

平成19年の白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合のイカナゴ漁獲量は10トンで、昭和56年以降平均の3.9%であった（図1）。

平成19年4月1日～6月30日に白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合で延べ8隻の光力利用敷網漁業の標本船調査を実施し、漁場を10区域に分けて解析した結果、発電所地先海域と全海域の半月別漁獲量の推移は図2のとおりであった。

平成19年におけるボンゴネット水深0～50m往復傾斜曳によるイカナゴ仔魚分布密度は図3のとおりであった。平成19年の平均分布密度は11個体/100m³（平成18年は2個体/100m³）であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

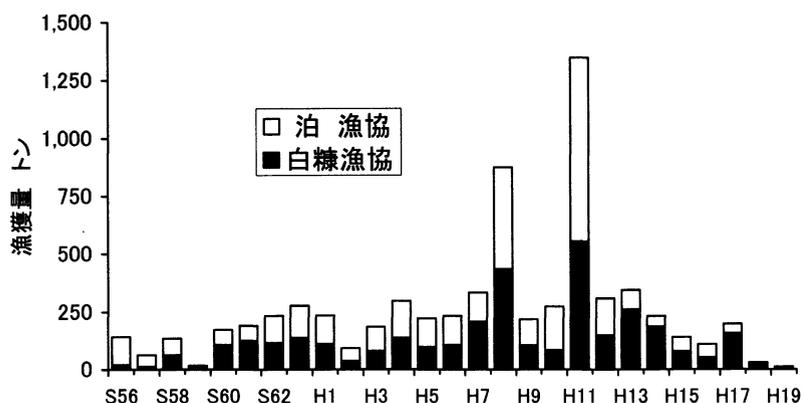


図1 イカナゴ漁獲量の推移

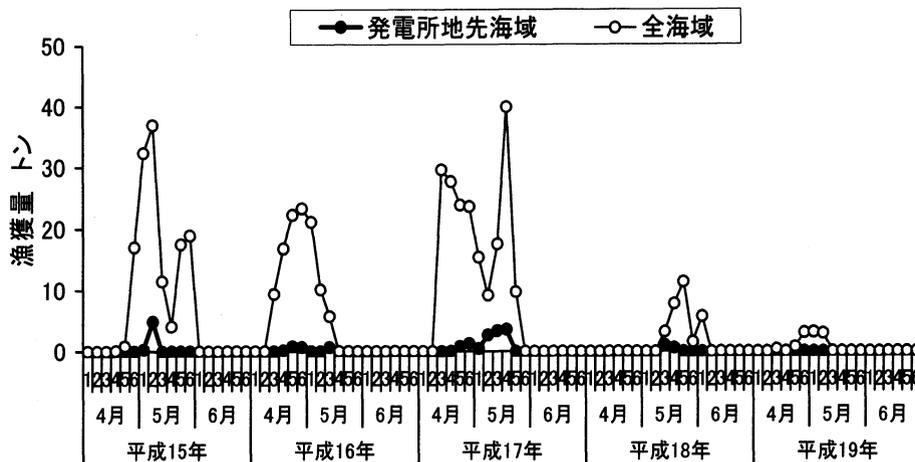


図2 本県太平洋北部海域を10区域に分けたうち発電所地先海域の半旬別推定漁獲量

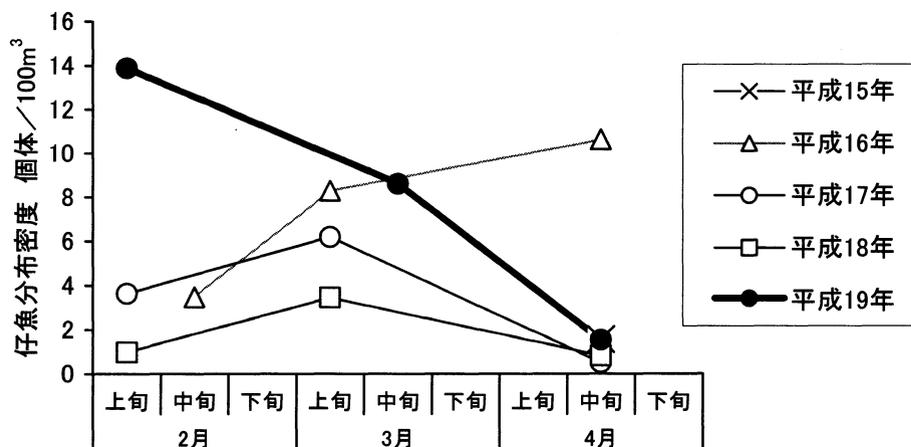


図3 イカナゴ仔魚の推定分布密度

〈今後の問題点〉なし

〈次年度の具体的計画〉今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

平成19年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会・監視委員会において、調査結果を説明した。

平成19年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告会（第1四半期）に報告。